



『鹿嶋力』 見つけた

市長エッセー No.56



▲7月16日に初戦を迎える日本製鉄鹿島硬式野球部の中島彰一監督を激励

日々、「まちづくりは人づくり」という考えのもと、鹿嶋っ子が郷土に愛着を持てるような「教育力」の充実を図っています。そして、子どもたちが、身近にある悠久の歴史・文化、整ったスポーツ環境に誇りを持ち、恵まれた環境の中で人間形成ができるよう取り組んでいます。



▲茨城国体鹿嶋市開催100日前イベントで、子どもたちにも想いを伝えました。

今年も日本製鉄鹿島硬式野球部が、本市の代表として都市対抗野球本大会に出場します。北関東大会第1代表決定戦で見た粘り強さや勝負強さは、鹿嶋っ子たちにもぜひ身に付けてもらいたい姿であり本市の誇りです。

本大会でも1戦1戦を勝ち抜き、今年こそ黒獅子旗を持ち帰っていただくとともに、子どもたちに夢を与え続ける活躍を期待しています。

ひと ギャラリー

車いすダンスの魅力伝えたい

いきいき茨城ゆめ国体2019

車いすダンス競技に出場する 三藤 真衣さん(平井)



今秋、茨城県を会場に第19回全国障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会2019」が開催されます。10月13日に水戸市で行われる同大会のオープン競技「車いすダンス」に、市内在住の三藤真衣さんが出場します。

10年前に知人の紹介で車いすダンスを始めた三藤さんは、ウィルチエアダンス研究会・クアルト(神栖市)に所属し、仲間と一緒に週2回の練習に励み、学校や病院などに出向いて車いすダンスの普及啓発活動を行っています。車いすの方と健常者がペアで社交ダンスを踊る車いすダンスは、車いすの特性とダンサーの身体を最大限に活かした息の合ったダンスが見どころです。

「いきいき茨城ゆめ大会」では、ラテン3種目総合(サンバ・ルンバ・チャチャチャ)、スタンダード3種目総合(ワルツ・タンゴ・スロー)に出場する三藤さん。

「クアルトのメンバー15人で踊るフォーメーションダンスにも注目してほしい。たくさんの人に見てもらい、車いすダンスの魅力を伝えたいです」と、笑顔で話しました。



▲三藤さん(左)とラテン3種目総合でペアを組む佃由美先生(右)

古川博士の気象コラム



古川 武彦…理学博士。元気象庁予報課長、札幌管区気象台長。退官後に「気象コンパス」を立ち上げ、気象の啓発活動などを行う。

「はんげしょう」の頃になると梅雨が明けると言われます。梅雨明けの平年値は7月21日頃なので、まさに秒読みの段階です。ちなみに、半夏生とは動植物の変化や季節の推移などの暦として用いられる「七十二候」の一つで、夏至から11日目(今年は7月2日頃)にあたります。

梅雨は日本列島だけでなく、東南アジア全体におよぶ循環(風系)の一部で、日本の梅雨は、右上図にあ



▲半夏生の語源となった「半夏」。葉の半分が白くなる葉草の一種。

る気団のうち次の二つの気団の影響で発生します。

「オホーツク海気団」から吹き出す低温・多湿の北東気流、「小笠原気団」の周囲を巡る高温・多湿の南西気流とがぶつかる帯が「梅雨前線」です。この周辺では、たびたび低気圧が発生し集中豪雨が起りやすくなります。

これから夏に向かって「太平洋高気圧」が強まり、前線を北に押し上げると、ようやく梅雨が明けます。梅雨末期でも、大雨などの災害に備えておきましょう。

半夏生の頃、梅雨時期の息さを解消するためにタコを食する習慣があります。特産「鹿嶋だこ」いいですね!



▲日本付近の気団のイメージ図